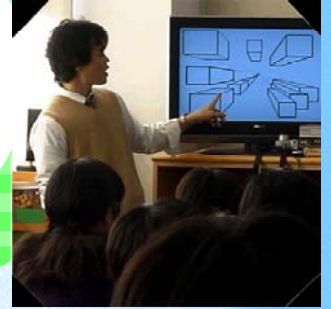


班別研修に対する所感

初心に戻る大切さを学ぶことが出来た。小手先の技術や偏った授業姿勢の持ち方を見直し、初任の時の気持ちに戻り自分の専門教科について考えることができた。自己満足に陥ることなくいつでも学ぶ姿勢、自己を客観的に見直す姿勢を持ち続けることの重要さが分かった。また、教師としてこれまで図画工作・美術の指導において抱いてきた疑問や不安を解決することができた。児童生徒が自分の思いを自由に表現するためには、思いを表現するための技能が必要であり、教師が教えるべきことをしっかり指導することやその手立てを工夫することの大切さを学んだ。



多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

教師とは違う職業の方の講義も教師という同じ立場にいる方の講義も、いつも意を同じにして働いている職場の同僚とは違った視点からものを見る機会となり、日々の自分の仕事に対する取組や抱いている思いを反省する時間となった。その中で、まず、行動すること、実践することが最も大事なことでであると改めて思った。また、エクササイズを使った体験的な内容もあり、ほかの研修員ともコミュニケーションをとることができて有意義であった。

授業参観協力校等での授業参観に対する所感

中学3年生美術の鑑賞の授業を参観させていただき、教材研究の大切さを学んだ。教材研究とは、題材にかかわる内容についての知識を豊富に身に付けておくことだけではない。生徒が教師の投げかけに対してどのように反応し授業がどう展開していくのか見通しをもつこと、ねらいを達成するために効果的な資料や参考作品を準備するとともにそれらをどう活用するかを研究しておくことが必要であると思った。



授業実践とその参観に対する所感

授業実践とその参観から、“教えるべきことをしっかり教え”手立てを工夫すると児童生徒の絵が変わるということを実感した。また、明確なねらいのもとに交流活動を重ね、日常化することは、創造的な表現を高め、創造活動の喜びを味わわせることにつながるということが分かった。また、常に、児童生徒の実態を核に、綿密な計画をたてて、実践し、自己評価、他者評価を合わせて改善していく。この流れを常に繰り返すことが、児童生徒の主体的な活動につながっていく基本であると十分に理解することができた。